

全体学習について

★生徒の成長について

①教師との信頼関係ができている生徒

全体学習を通して自分と向き合い、素直に発表することができる。また、担任との生活ノートにも家族のことや自分のことを綴ってくる。苦しいことや悲しいこと、うれしいこと、友達との出会いへの感謝の気持ち、これからの自分を見つめられるような内容のノートを書いたり、表現できるようになったりしてきた。また、学校生活でも落ち着いた生活ができ、友達関係でトラブルがあっても、自分たちで解決できるような力がついてくる。

②教師と信頼関係ができている生徒

全体学習の発表の中で、教師に対して反発的な発言や行動をとり、場の雰囲気を壊す。「教師をやめろ」という発言を受けた。学校生活でも反発が強く、いすを投げられたことがあった。また、ほとんど教室に入らない生徒は、全体学習に参加しても、聞いてはいるが寝ていたり、きれい事を言っていると感じたりしている。ただ、身近な友達の発言に対しては、真剣に聞いている場面もあった。

★教師の対応

①生徒に対して

生徒数が 200 人の中で、一人の生徒が自分の苦しい立場(親の離婚やDVのことなど)を発言したときに、一人一人の生徒がどのように受け止め、どのようにその一人に接していくのか、フォローしていくのが教師にとって難しい。クラスの中でも、担任としての発言のみで終わり、個人的にフォローできなかった。友達同士では、いろいろなことが話せているようだったが、全体学習のあとの感情が見えにくい。

②教師に対して

「教師をやめろ」という発言を受けた時、周りの教師からのフォローもなく、非常に苦しい全体学習であった。学年団のまとまりがあっても、教師に対する暴言をそのままにしてしまうことに、不信感を感じた。管理職にも相談をしたが、クラス毎の担任の温度差を埋めるようにしなくてはならない。クラスでどれだけ担任が、全体学習の予習をさせておくかで、雰囲気が変わってくる。

★注意点

生徒や教師自身が、さらし者にされる危険性があるので、全体学習の雰囲気づくりが非常に大切である。どのように進めるかで、生徒にとって成長にもつながるが、危険でもある。長所と短所が分かれると思われる。

何のために全体学習をするのか。全体学習の雰囲気がある意味、宗教のようで自分の発言に酔っている生徒がいた。その後、学校生活で変わることもなく、その子にとってプラスになってはいない。

全体学習で発表するのではなく、クラスの中で発表したいという生徒も大勢いた。クラスでは言えるけど、全体学習では言いたくないと言って、表面的な発言はしたが、自分の心の中を話すことはなかった。みんなの前で言うことで、何かが変わるのだろうけど、受け止めてくれる雰囲気があれば言えるのではないだろうか。